

P1-102

親子の食生活QOLと子どもの生活の質の 関連

瀬尾 知子¹、村松 志野²、沢井 佳子³、
榊原 洋一²

¹秋田大学、

²お茶の水女子大学、

³チャイルド・ラボ

【問題と目的】

基本的食習慣の形成期である幼児期の食育は、生涯にわたって心身を健康に保つ食生活を営むために、極めて重要である。特に、親の食生活 QOL は家庭での食環境に大きくかかわり、親の食生活 QOL を高めることが、子どもの食環境を改善し、子どもの食行動に良い影響を与えることが指摘されている。また、親の食生活に関する意識や、食を介した親子のコミュニケーションが、子どもと親の生活充実感と関連があることが示されている。このことから、親の食生活 QOL は、子どもの食生活 QOL だけでなく、子どもの生活の質 (QOL) にも影響を与えていることが推察される。

本研究では、親と子の食生活 QOL ならびに子どもの生活の質 (QOL) の相関を、親を対象とした質問紙調査によって分析し、両者の関連を検討した結果を報告する。

【方法】

(1) 対象者：秋田県の A 市の幼稚園・保育所に通う子ども (3 歳から 6 歳) をもつ親 178 名 (父親 10 名、母親 168 名) を対象として、2021 年 10 月に質問紙調査を行った。(2) 調査内容：親と子の食生活 QOL は、西尾・足立 (2006) を参照し、食生活の楽しさ・満足感・雰囲気・食事への期待感の 4 項目の 5 件法であった。また、子どもの生活の質に関しては、子どもの QOL を測定する尺度 KINDL[®] (親評定版) を使用した。回答は 5 件法であった。

【結果】

親の食生活 QOL と子どもの食生活 QOL ならびに、子どもの生活の質 (QOL) を測定する尺度 KINDL[®] の下位尺度 6 項目 (身体・心・自尊心・家族・友人・園) の得点間の相関について分析した。その結果、子どもの食生活 QOL と家庭との関係の項目の間に、相関係数 (r) が 0.4 以上の有意の正の相関関係が認められた。また、子どもの食生活 QOL と身体の状態との間には相関関係が認められなかったが、その他の項目 (心・自尊心・友人・園) において、正の弱い相関が認められた。

【考察】

親の食生活 QOL が子どもの食環境や食行動に影響を与えることは既に報告されている。今回のわれわれの調査結果では、親の食生活 QOL と子どもの食生活 QOL、子どもの生活の質 (QOL) の全般にわたり正の相関が認められ、家庭での食生活の質の向上が、子どもの生活の質 (QOL) の向上へつなげる可能性があることが示唆された。

※本研究は、科学研究費助成事業 (基盤 C) 課題番号 19K2330 によりおこなった。